

『みんなの笑顔のために』

ロービジョンフットサル体験人権教室

11月9日(木)、4年生の子どもたちがロービジョンフットサルの体験をしました。玉名人権擁護委員協議会の皆様のご支援のもと、ロービジョンフットサル日本代表を応援する会の皆様にご指導いただきました。ロービジョンフットサルとは、目のみえにくい視覚障がい者(弱視者)が残された視力・視野を駆使してプレーするフットサルです。ルールはフットサルとほぼ同じで、選手は弱視状態のままプレーします。日本代表チームは、2015年に開催された世界大会で歴史的な1勝をあげ、現在もさらなる強化を目指して活動されています。子どもたちは視野の異なるゴーグルをつけ、ロービジョンの方の感覚を体験し、思いやりの心や互いを尊重することの大切さについて学ぶことができました。



体験後、3年前に熊本出身の車いす陸上 中尾有沙選手の講演会を聴いたときに紹介していただいたパラリンピックの創設者である医師ルートヴィヒ・グットマン博士の次の言葉を思い出しました。

『失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ。』

この言葉から、またロービジョンフットサルの体験から、今できることに精一杯取り組むことの大切さも教えていただいたように感じました。

和水町人権の集い

11月26日(日)の午後、和水町人権の集いが開催されます。ロンドン・パラリンピックのゴールボール競技で金メダルを獲得された南関町出身の浦田理恵さんの講演が計画されています。

「一歩踏み出す勇気～自分が変われば世界が変わる～」という演題でお話をされる予定です。浦田理恵さんのプロフィールを紹介するホームページに浦田さんのことばが紹介されていました。

目が見えなくなっただけで見えるようになったことがあります。感覚を研ぎ澄まし、音でボールやコートを見たり、夢を持って挑戦することの楽しさ、そして周囲への感謝の気持ちの大切さを気づかせていただきました。困難は神様からのプレゼントです。悔しさや苦しみ、悲しみや怒りをどれだけポジティブに変換し、楽しさを見出していけるか。日々の小さな一歩を大切に、支えていただいている方々との力をつなぎ、限界を更新していきます。その先に世界一の栄光があると信じています。

11月14日(火)に和水町で開催された「ナゴミ夢チャレンジトーク」(4年生以上が参加)でも、元サッカー日本代表の前園真聖さんと元Jリーガーの原一樹さんが夢を実現させるために「一歩踏み出すこと」の大切さを話されました。浦田理恵さんの講演のタイトルと重なります。

子どもたちはロービジョンフットサルの体験やアスリートとのふれあいを通して、大切なことを学ぶことができました。

